

保護者様

横浜市立西寺尾小学校
校長 伊藤 洋子

「令和元年度 横浜市学力・学習状況調査」結果報告について

日頃より本校の教育活動にご理解・ご協力いただき、ありがとうございます。

さて、昨年度 2 月に実施しました「令和元年度 横浜市学力・学習状況調査」の結果及び考察をまとめましたので、ご報告いたします。

報告する内容は、「本校と横浜市の平均正答率一覧表」「結果及び考察（学校全体）」「結果及び考察（各学年）」の三つです。この調査結果を令和 2 年度の指導につなげ、これまで以上に心豊かに生きる力を育む教育活動の充実を目指し、取り組んでまいります。

1 本校と横浜市の平均正答率一覧表

教科	観 点	本校	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	5 年 生	6 年 生
		市	(現 2 年)	(現 3 年)	(現 4 年)	(現 5 年)	(現 6 年)	(現中 1)
国 語	話す・聞く能力	本校	59.9	71.4	37.6	60.8	58.9	72.3
		市	62.2	65.2	40.4	71.7	68.1	73.9
	書く能力	本校	39.0	33.3	58.2	42.7	41.1	45.2
		市	42.6	39.2	59.7	48.0	39.7	56.5
	読む能力	本校	54.9	48.2	58.2	45.6	50.7	64.7
		市	59.2	49.6	58.4	51.0	52.6	62.0
	言語についての知識 ・理解・技能	本校	75.4	74.8	58.4	69.2	57.8	78.7
		市	74.9	77.6	63.4	72.0	62.1	75.2
算 数	数学的な 考え方	本校	51.7	50.0	28.7	36.5	37.2	51.6
		市	45.4	51.0	29.7	42.8	40.2	49.5
	技能	本校	84.2	77.9	63.6	60.8	77.8	79.2
		市	82.4	75.8	61.9	69.5	69.9	72.7
	知識・理解	本校	64.2	68.1	62.0	50.9	62.7	57.2
		市	61.7	67.3	63.0	57.4	59.7	58.1
社 会	思考・判断 ・表現	本校			58.4	58.1	74.4	66.6
		市			58.3	64.5	76.4	66.3
	技能	本校			68.2	58.2	77.7	73.0
		市			71.9	66.7	78.0	70.2
	知識・理解	本校			62.7	69.4	79.1	80.0
		市			69.0	74.9	79.3	73.2
理 科	思考・表現	本校			67.0	53.7	51.0	65.6
		市			69.4	62.3	56.0	62.4
	技能	本校			75.5	77.2	59.2	68.6
		市			77.6	77.8	55.4	65.8
	知識・理解	本校			81.4	72.4	63.9	63.1
		市			80.1	73.2	64.8	65.5

2 「令和元年度 横浜市学力・学習状況調査」結果及び考察（学校全体）

（1）学力の概要と要因の分析

算数科の学力に関して、横浜市の平均とほぼ同じ状況であるが、国語科の学力は、市の平均を下回る結果となった。生活意識に関しては市の平均を若干下回り、学習意識に関しては、社会科、音楽科、図画工作科、体育科では市の平均を大きく上回っているが、その他の教科では市の平均を下回った。

生活意識の設問「学校の授業は分かりやすいか」で「よく分かる」「だいたい分かる」と回答した児童の割合は、学校全体で79%となる。一人ひとりの子どもの実態をとらえた指導を心がけた成果をとらえる。

一方、生活意識の設問「勉強は好きか」で「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童の割合は、75%で、市の平均をわずかに下回った。課題解決的な学習を大事にし、主体的に学び、学びを楽しめるような授業の工夫が必要となる。

各教科における「基礎・基本」及び「活用」の設問について、学校全体の正答率をみると、算数「基礎・基本」、理科「活用」以外は、市の平均を下回っている。各学年の正答率では、「活用」に比べて、「基礎・基本」が市の平均と同程度、もしくは、上回っていることが多い。

このことから、「基礎・基本」の定着を一層図りつつ、「基礎・基本」を「活用」する学習活動をバランスよく授業に位置付けていく必要がある。

（2）教科学力及び経年分析

【国語科】全体として、「話す・聞く能力」「書く能力」が低い傾向があり、表現する力が低いことが分かった。目的や相手、意図などを明確にして、必要な材料を集め、分類したり関係付けたりして、自分の考えが伝わるように表現を工夫するような授業づくりが必要である。そのために、教科等との関連を図り、「話したい」「話し合いたい」話題、「書きたい」題材が必然的に存在する時期に、必要感のある学習を行っていききたい。

【算数科】「技能」では、市の平均を上回ることが多く、高学年ほどその傾向が強い。個と全体の学習活動の構成を工夫したことで、学習内容がしっかりと定着していることが分かる。今後は「知識・理解」「技能」の一層の定着を図りつつ、「数学的な考え方」の力をより一層のばすために、既習事項をもとに試行錯誤する学習を行ったり、見通しをもって筋道立てて考えたことを説明する学習を行ったりするなど、習得・活用の場면을意図的に位置付けた学習を展開したい。

（3）経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

生活意識「勉強は好きか」について平成23年度からの経年変化をみると、「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童の割合は、80%前後から90%弱にゆるやかに上昇していたが、29年度より低下し、本年度も75%と下がった。学習意識では、社会科以外において、昨年度までと比べて低く、市の平均を下回る結果となった。

今後は、学習意欲の向上を図るため、相手意識・目的意識を大切にした必要感のある学習、見通しを立てたり振り返りをしたりして自分の成長を自覚できる学習、体験や経験を通じた実感を伴った学びの中で「学びたい」「伝えたい」という思いをふくらませる学習などを実現し、子ども自らが自分事としてとらえ、必要なものとして「基礎・基本」を身に付けることができるようにしていきたい。

また、平成30年度より学校司書と連携しながら、主教材と並行して他の図書資料を読んだり課題について調べるために読んだりするなど、豊かな読書活動の推進を行ってきた。「学校図書館に行くことが好きですか」では、3ポイント市の平均を下回っているものの、生活意識「1日にどのくらい読書するか」では、30分以上読書する児童の割合が、市を上回った。だからこそ、子どもが進んで本と関わる機会を大切にするように授業づくりを工夫し、学校図書館の一層の活用を図り、学力向上につなげたい。

3 「令和元年度 横浜市学力・学習状況調査」結果及び考察（各学年）

【令和元年度 1年生（現2年生）】

（1）令和元年度の結果及び考察

<p>【国語科】</p>	<p>「国語の学習が好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童の割合が85%以上、「相手に自分の知っていることやしたこと、考えたことを順序に気を付けながら話している」「どちらかといえば話している」と答えた児童の割合は90%以上となっている。国語科の学習に対して、意欲的に取り組む児童が多いことが分かる。</p> <p>「基礎・基本」については、市平均と同程度だが、「活用」については、6ポイント下回っている。国語科の学習だけでなく、他教科等や学校生活の中で、必要感をもって「基礎・基本」を「活用」し、学習内容の定着を図っていけるよう工夫したい。</p> <p>また、「読む能力」は、市の平均を下回っている。学校図書館の利用を積極的に行い、教科書教材だけではなく、学習に関連させながら、他の文章を読む活動の充実を図り、文章を読む楽しさを十分味わったり、本に進んで親しんだりすることを大切にしたい。</p>
<p>【算数科】</p>	<p>「算数の学習は大切」「どちらかといえば大切」と答えた児童が90%以上、「自分の考えを絵や式や言葉を使って説明しようとしている」「どちらかといえばしている」と答えた児童についても90%以上いる。算数科の学習に対して、高い意欲をもっていることが分かる。</p> <p>「数学的な考え方」「技能」「知識・理解」の全ての観点において、市平均を上回っている。特に、「数学的な考え方」については、市平均を6ポイント以上上回っている。考えたことを、具体物や算数ブロックを使って表現する算数的活動を通して、数への理解が深まり、思考力が身に付いたと考えられる。</p> <p>一方で「数量関係」領域の設問については、市の平均をやや下回っている。具体的な場面を式に表現したり、式から具体的な数量関係を考えたりすることに課題が残る。「自分の考えを説明しようとしている」意識の高さを生かし、一人ひとりが課題に向き合う時間や友達と説明し合う時間を大切にしたい。</p>
<p>《生活意識調査》</p>	<p>「学習が好き」と答えた児童が多く、市の平均を上回っている。学習意欲の高さがうかがえる。また、「人と話をしたり、聞いたりすることが好き」と答えた児童も多くいる。好奇心旺盛で、人と関わるのが好きであり、様々なことに高い関心をもっていることが分かる。</p> <p>一方で、「友達や家族との約束を守っている」「学校のきまりを守っている」と答えた児童の割合が、市平均を20ポイント以上下回っている。約束やきまりを守ることで自分も周りの人も安心して過ごせることに気づき、進んで守ることができるよう、児童の思いを大切にしながら、今後も指導と支援を心がけたい。</p>

（2）令和2年度の取組

- 学習課題を児童の日常生活に関連付けて設定し、他者との協働的な関わりを通して、課題を自分事として意識することができる授業を展開する。
 - ①子どもたちの思いや願いを大切に、楽しい体験活動を通して自ら考え、自ら学ぶことのできる学習を行う。
 - ②問題解決の場面では、他者の考えに触れ、自分の考えを広げ、深めることを大切に
- 学習したことをまとめ・表現する活動展開を設定し、理解の定着を図るとともに、自ら課題を見付けられる授業を展開する。
 - ①相手意識や目的意識を明確にもち、話の聞き方や伝え方を理解し、伝え合う時間を設定する。
 - ②言語表現を豊かにすると共に、絵や歌など、様々な表現方法のよさを共感し、学習したことが生活の様々な場面で生かせるということに気づき、自分の生活を豊かにできるという体験を積み重ねられるようにする。

【令和元年度 2年生（現3年生）】

（1）令和元年度の結果及び考察

<p>【国語科】</p>	<p>「話す・聞く能力」の正答率は、市の平均を上回っている。特に「話す事柄を順序立てて話すこと」についての正答率が高い。話の大事なところを落とさずに聞き、相手意識をもって話すことが定着していることが分かる。</p> <p>一方で、「書く能力」の正答率が、市の平均を下回っている。「話す・聞く能力」に比べて「書く能力」が定着していないことが分かる。順序を考えて文章を書いたり、書いた文章を児童同士で見合っ感想を伝え合ったりする学習の機会を増やし、「書く能力」を付けていく必要がある。</p> <p>学習意識調査では、「国語の勉強が好き」と答えた児童の割合が、市の平均より20ポイントほど低い。児童同士の学び合いの活動を増やし、国語の学習の楽しさを更に味わえる時間を大切にしたい。</p>
<p>【算数科】</p>	<p>「数と計算」「図形」「数量関係」の領域では、正答率が市の平均を上回っている。繰り上がりや繰り下がりやに注意して計算したり、図形の構成要素に着目して仲間分けをしたり、位に着目して数の大小を考えたりする学習などを通して、理解がより深まった成果だと言える。</p> <p>一方で、「量と測定」の領域のすべての設問の正答率が、市の平均を下回っている。具体物を繰り返し操作するなど、実感を伴った理解を図ることが必要だと考える。</p> <p>「算数の授業で勉強したことを生活の中で使おうとしているか」の設問では、「使おうとしている」と答えた児童の割合が、市の平均を17ポイント下回っている。既習内容を活用して、日常生活の課題を解決する活動を取り入れていく必要がある。</p>
<p>《生活意識調査》</p>	<p>「一生懸命取り組んでいることがある」、「最後までやり遂げて嬉しかったことがある」と答えた児童の割合が高く、自分が打ち込んでいるものがあり、充実感を感じていることが分かる。また、「まちの行事に参加している」と答えた児童の割合が、昨年度に引き続き高い。地域と関わるよさに気付いていると考える。一方で、「人の気持ちを考えるようにしている」、「学校のきまりを守っている」、「自分にはよいところがあると思う」と答えた児童の割合が、市の平均を下回っている。相手の気持ちを考えて行動できたことを価値付け、きまりを守って互いが思いやりをもって過ごす、自分も相手も安心して過ごせることを実感できるように指導していく必要がある。</p>

（2）令和2年度の取組

- 学習への取組を振り返り、次への課題を見付けられるようにする。また、振り返りを価値付けることで、自分自身の成長に気づき、学習への意欲を高められるようにする。
 - ①児童にとって必要感のある学びになるように、児童の興味・関心をもとに学習課題を設定し、児童の実態に合った学習内容や展開の仕方を工夫する。
 - ②学習への取組を自分自身で振り返り、次への課題を見付けられるようにする。また、振り返りを積み重ねることで、自分自身のよさや成長に気づくようにする。
 - ③各教科の内容配列を吟味し設定することで、学んだことを他教科や生活に生かすことができるようにする。
- 伝え合う活動を大切にすることで、互いの違いに気づき、それぞれのよさを認め合ったり、自分の考えをより深めたりできるようにする。
 - ①様々な教科や生活場面等で、自分の考えを伝えたり友達の考えを受け止めたりする活動を意識的に取り入れることを通して、様々な考え方に触れ、それぞれのよさを認め合えるようにする。
 - ②様々な「人・もの・こと」との出会いや関わりを通して、自分や周りに関心を持ち、よりよい学びや生活をつくり出そうとする意欲を高める。

【令和元年度 3年生 (現4年生)】

(1) 令和元年度の結果及び考察

【国語科】	「話す・聞く能力」の正答率は、市の平均よりも2.8ポイント下回っていた。自分の考えを相手に伝える際に、どのようなことを意識すればよいかをしっかりと理解し、必要に応じて、言葉についての知識・理解・技能は、市の平均よりも5ポイント低い。日常的に使う語彙を増やしたり、新出漢字の学習の際に関連する語句をとらえたりすることが必要だと考える。学習意識調査では、「国語科の勉強が好きか」という設問に肯定的に答えた児童の割合が、市の平均より2ポイント低い。また「国語科の勉強は、大切だと思えるか」の設問に肯定的に回答した児童については89%となっており、市の平均より7ポイント低くなっている。学習課題を自分事として捉え、相手の意識をもつて取り組むことで、国語科の学習成果を日常生活の中で実感する機会を増やしていくことが必要である。
【算数科】	「技能」の正答率は市の平均を上回っており、日々の授業において正確に計算する力が高まっていると考える。一方で、「数学的な考え方」と「知識・理解」については市の平均よりも1ポイント低い。引き続き、単に計算問題を解くだけでなく、問題場面から計算に必要な式を考えたり、学習内容を生活と結び付け、考えたりする活動を大切にする必要があると考える。学習意識調査では、「算数科の勉強が好きか」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合が、市の平均よりも4ポイント上回っている。一方で、「算数科の授業で勉強したことを、ふだんの生活の中で使おうとしているか」という設問に対して肯定的に答えた児童については、市の平均より7ポイント低かった。日常生活の中で必要なことを考える。
【社会科】	「思考・判断・表現」の正答率は、市の平均とほぼ同じであり、体験を通して考え表現する学びを多く取り入れた結果が表れている。一方で、市の平均を、「技能」は3.7ポイント、「知識・理解」は6.3ポイント下回っている。体験を通して分かったことを知識として使えるようにすることが必要である。そのために、活動の振り返りに力を入れ、分かったことを新たな知識として価値付け、その知識が次の活動につながるようになっていくことが必要である。学習意識調査の結果は、「社会科の勉強が好きか」という設問に対して肯定的に答えた児童の割合は、市の平均より8ポイント上回っており、体験を通して学びたい児童の意欲的な取り組みにつながっている。一方で、「社会科の授業で、はみんが疑問に思ったことについて話したりしているか」という設問に対して肯定的に答えた児童については、市の平均よりも8ポイント低かった。一人ひとりの疑問を、全体での問いを立て、考え議論していく活動が必要だと考える。
【理科】	「知識・理解」の正答率は市の平均を1.3ポイント上回っており、多くの体験から知識を身に付けてきていると分かる。一方「思考・表現」と「技能」に力をつけるには、どのような事象が起こっているのか図や絵を用いて理解したり説明したりする力が必要である。また、課題解決を通して、実験に必要な道具の正しい使用方法を理解することも必要である。「理科の勉強が好きか」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合が、市の平均より8ポイント上回っている。体験的活動を多く取り入れた結果が思われる。一方で、「理科に関する映像や本を、自分から進んで見ようと思えるか」の設問に対して肯定的に答えた児童の割合は、市の平均より8ポイント低かった。児童が疑問に思ったり自主的に解決できるような、資料の使い方や指導したり環境を整えたりすることが必要だと考える。
《生活意識調査》	「一生けんめい取り組んでいることがあるか」「自分にはよいところがあると思うか」という設問に対して肯定的に答えた児童の割合が、市の平均より10ポイント下回っていた。物事に対して粘り強く取り組み、達成する経験を増やしたり、自己肯定感を高めていくことが必要だと考える。「1日に、携帯電話やスマートフォンを操作して、インターネットやメールをどれくらいしているか」の設問に対して、30分以上使用している児童の割合が、市の平均よりも20ポイント上回っている。各家庭と連携して指導する必要があると考える。「音楽や図工・美術などの芸術に関心があるか」に対して肯定的に答えた児童の割合が、市の平均よりも7ポイント高かった。作品展や音楽会などの活動において、児童が豊かに感性を働かせてきたことがこの結果につながっていると考える。

(2) 令和2年度の取組

- 子どもの学習意欲を高め、充実した課題解決的な学習を行うことができるように、学習課題を子どもの生活と結び付けるようにする。
 - ① 一人ひとりの疑問をもとに全体での問いを立て、考えを議論したり発表したりする活動を設定し、自分ごととして学習に参加できるようにする。
 - ② 子どもの生活と関連を図った学習課題を設定し、学習活動を展開する。
 - ③ 問題解決の過程において、図書資料やインターネットの活用、地域の人への取材などを積極的に行い、自ら情報を集めながら学習課題を追究できるようにする。
- 自己肯定感を高めるため、自分が成長したことや理解したことやそのための方法について、自ら理解できるように、振り返りの時間を十分に確保する。
 - ① 学習のはじまりにおいて、単元や題材のめあてを一人ひとりが理解した上で、自分のめあてを設定できるようにする。
 - ② 学習した後には、めあてを意識しながら、自分が理解したことや成長したことについて振り返る場面を設ける。

【令和元年度 4年生 (現5年生)】

(1) 令和元年度の結果及び考察

【国語科】	<p>「基礎・基本」の活用について、ともに市の平均を6～7ポイント下回る結果となった。この結果は、児童の学習意欲や生活態度の向上を図るため、授業で積極的に取り組む必要がある。また、児童の学習意欲や生活態度の向上を図るため、授業で積極的に取り組む必要がある。</p>
【算数科】	<p>「基礎・基本」の活用について、ともに市の平均を6～7ポイント下回る結果となった。この結果は、児童の学習意欲や生活態度の向上を図るため、授業で積極的に取り組む必要がある。また、児童の学習意欲や生活態度の向上を図るため、授業で積極的に取り組む必要がある。</p>
【社会科】	<p>「基礎・基本」の活用について、ともに市の平均を6～7ポイント下回る結果となった。この結果は、児童の学習意欲や生活態度の向上を図るため、授業で積極的に取り組む必要がある。また、児童の学習意欲や生活態度の向上を図るため、授業で積極的に取り組む必要がある。</p>
【理科】	<p>「基礎・基本」の活用について、ともに市の平均と同程度であったが、「思考・表現」については、8.6ポイント下回った。単元で見ると「金属・水・空気」の学習が11.6ポイント、「季節と生き物」が13.3ポイントであった。児童の学習意欲や生活態度の向上を図るため、授業で積極的に取り組む必要がある。また、児童の学習意欲や生活態度の向上を図るため、授業で積極的に取り組む必要がある。</p>
《生活意識調査》	<p>「まじりの行事に参加している」と肯定的に答えた児童が、市の平均を9ポイント上回る結果となった。進んで地域との関わりを大切にしていきたい。また、児童の学習意欲や生活態度の向上を図るため、授業で積極的に取り組む必要がある。また、児童の学習意欲や生活態度の向上を図るため、授業で積極的に取り組む必要がある。</p>

(2) 令和2年度の取組

- 学習課題を児童の日常生活に関連付けて設定し、他者との協働的な関わりを通して、課題を自分事として意識することができる授業を展開する。
 - ① 目的を明確にした体験活動を積極的に取り入れ、探究的に学ぶことを通して、課題と自分との関係をとらえながら学習を行う。
 - ② 問題解決の場面で他者との対話を積極的に取り入れ、協働して解決することを通して、多面的な視点で思考することができる学習を行う。
- 学習したことをまとめ・表現する学習展開を設定し、学習内容の理解の定着を図るとともに、自ら課題を見付けられる授業を展開する。
 - ① 相手を明確にした表現活動を取り入れ、学んだことの活用が積極的に行われるような学習を行う。
 - ② 学んだことの振り返りを取り入れ、自らの理解の深まりをとらえ、成長を実感することを通して、次の課題を見いだせる探究的な学習を行う。

【令和元年度 5年生 (現6年生)】

(1) 令和元年度の結果及び考察

【国語科】	<p>「書く能力」は、1.4ポイント市の平均を上回った。日頃より、目的意識をもって自分の考えをまとめる学習を行ってきたことが大きいと考える。一方で、「話す・聞く能力」は、市の平均を9.2ポイント下回り、「知識・理解・技能」は4.3ポイント下回った。「自分が聞こうとする意図や目的に応じて聞く」や「相手から適切な情報を引き出すためにふさわしい表現を選んで質問する」などに課題が残った。</p> <p>学習意識調査では、「国語の勉強は好きか」「国語の授業が分かるか」という設問に肯定的に答えた児童の割合が、市の平均よりも高かった。一方で「相手やめあのてに沿って分かりやすく話す」では、市の平均を下回った。学習への意欲は高いので、今後は一層、相手意識や目的意識をもって理解したり表現したりする学習を展開していきたい。</p>
【算数科】	<p>「技能」「知識・理解」では、市の平均を上回った。継続して計算問題に取り組むようにしたり、正確に作図できるように個に応じた指導を行ったりしたことが大きかったと考える。一方で、「数学的な考え方」では、市の平均を下回った。領域でみると、「量と測定」の「単体量あたりの大きさ」を求める設問の正答率が、3割程度学習意識調査では、「算数の勉強が好き」「算数の授業が分かる」という設問で、肯定的に答えた児童の割合が市の平均を上回った。一方で「勉強しことをふだんの生活の中で使おうとしている」という設問では、市の平均を下回った。</p> <p>今後「できる・分かる」喜びを味わえるような指導を行い、基礎・基本の定着を図るとともに、既習事項を関連付けて考えたり、式を用いて説明したりする学習を大切にし、また、割合の考え方や、学習したことを生活の中で繰り返し使え、理解が深まってくるような学習方法の工夫が必要だと考える。</p>
【社会科】	<p>「技能」「知識・理解」の正答率では、市の平均と同程度の結果となった。実体験を通したり資料を活用したりして、学習内容の定着を図ったことによると考える。また、地図帳や地球儀を繰り返し活用したことも大きい。</p> <p>「思考・判断・表現」では、市の平均を2ポイント下回る結果となったが、その中でも、「水産」「医療情報ネットワーク」の設問では、市の平均を上回っていた。資料を活用して考えたことを、友達と話し合い、更に考えを深められるようにしたことで学習意識調査の「社会の勉強が好きか」「自分が考えたことを書いたり話し合ったりしているか」という設問に肯定的に答えた児童の割合は、市の平均を上回った。日頃から自他の考えを交流することを大切にした成果が表れる結果となった。また、社会科でも学んだことを更に深め、「まなびのひろば」で工夫して発表した機会をもったことも大きかった。引き続き、対話的な学習を目指し、子どもの生活と結びつけた、実感を伴った学びができるようにしたい。</p>
【理科】	<p>「技能」については、市の平均より3.8ポイント上回っているが、「思考・表現」については5ポイント下回っている。中でも、「流水のはたらき」の「思考・表現」が7.6ポイント、「電気のはたらき」が9.3ポイント下回っている。「流水のはたらき」では、天気の変化と雲の量や動きなどとの関係について、予想や仮説をもち、条件に着目して観察を計画して表現することに課題があることが分かった。「電気のはたらき」では、電磁石の強さや導線の巻き数、電磁石の極の変化と電流の向きとを関係付けて考察し、自分の考えを表現することに課題があることが分かった。</p> <p>学習意識調査では、「理科の勉強は大切だと思うか」「理科の勉強をすれば、自分自身ふだんの生活や社会に出て役立つと思うか」などの全ての設問について、市の平均を下回っている。身近な自然現象をあらためて見つめ、その面白さを実感する学習の展開を工夫していく必要がある。</p>
《生活意識調査》	<p>「ものごとを最後までやりとげようとしたことはあるか」「自分にはよいところがあるか」という設問に肯定的に答えた児童の割合が、市の平均を上回っている。これは、御岳宿泊体験学習やスポーツフェスタ、ハッピースマイル音楽会等、様々な行事に「これでいいの、もっとないの」と、自ら課題を見つけて全力で取り組んだことが自信に繋がり、自己肯定感が高まったことが要因であると考えられる。一方で、「あいさつを自分からしているか」「学校のきまりを守っているか」という設問に肯定的に答えた児童の割合が、市の平均を下回っている。縦割り活動や委員会活動などで、低学年と関わったりリーダーシップをとったりすることを通して、低学年の手本となれるよう互いに高め合っていける雰囲気を作りたい。また、子どもたち一人ひとりの頑張りを、学校だけでなく家庭や地域でも見守り支えていく関係性を大事にしていきたい。</p>

(2) 令和2年度の取組

- 粘り強く課題解決に向かう力を育てるために、子どもの生活に身近な問題や深く追求したいと思えるような、魅力ある材を取り上げる。
 - ①ひと・もの・こととの出会いを大切に、実感を伴った学びができるように、体験的な学習を積極的に取り入れる。
 - ②子どもから「なぜだろう」といった問いが自然に生まれ、意欲的に課題解決に向かえるような学習を行う。
- 自分の考えを相手意識や目的意識をもって伝え、新たな考えにふれて自分の見方・考え方を広げることができるよう対話的な授業を展開する。
 - ①問題解決の場面で、目的意識をもって自分の考えを伝えつつ、他者との対話を大事にして協働的に解決することを通して、自らの理解の深まりや成長を実感し、さらなる課題を見付けられる探究的な学習を行う。

【令和元年度 6年生 (現 中学1年生)】

(1) 令和元年度の結果及び考察

<p>【国語科】</p>	<p>「読む能力」「知識・理解・技能」は、市の平均を上回っている。本と触れ合う時間を大事にしつつ、敬語の正しい使い方や話し言葉と書き言葉の違いなど、言語感覚を磨く指導を繰り返し続けた結果が表れたと考える。一方で、「書く能力」は11ポイントほど、「話す・聞く能力」は1ポイントほど市の平均を下回っていた。目的や意図に応じて必要な事柄を整理し、構成の効果を考えながら、話したり書いたりすることが大切になると考える。</p> <p>学習意識調査では、「国語の勉強が好きか」「国語の授業が分かるか」という設問に、肯定的に答えた児童が90%以上いた。「相手やめあてにそって分かりやすく話している」と肯定的に答えた児童の割合が85%と、市の平均と比べても高い。国語科を学習することの大切さ実感し、楽しみながら意欲的に学習することができたことが分かる。</p>
<p>【算数科】</p>	<p>「技能」は、市の平均を6ポイント以上上回っている。繰り返し継続した取組を通して、問題を正確に解く力が高まったことが分かる。「数学的な考え方」は、2ポイントほど上回っており、式が成り立つ理由などを考えて説明する力が育っていることが分かる。一方「知識・理解」は、市の平均を1ポイントほど下回る結果となった。「基礎・基本」を活用する中で、その定着を図ることが大切になる。</p> <p>学習意識調査では、「算数で勉強したことをふだんの生活の中で使おうとしている」の設問で肯定的に答えた児童の割合が、市の平均を6ポイント上回っていた。一方で「算数の勉強が好きか」の設問では、市の平均より5ポイント下回り、「算数の授業が分かるか」では、2ポイント下回る結果となった。児童が分かる喜びを味わって意欲的に学習できるように、「基礎・基本」の定着を図るとともに、生活と学習課題を結び付けることで学んだことが役立つ実感を得られるようにすることが大切だと考える。</p>
<p>【社会科】</p>	<p>「知識・理解」「技能」は、市の平均を上回っている。「知識・理解」は6ポイント以上、「技能」は3ポイントほど高かった。学習課題を自分事としてとらえ、主体的に問題解決を繰り返したことが、このような結果につながったと考える。</p> <p>学習意識調査では、「社会科の勉強は、大切だと思うか」という設問には99%の児童が肯定的に答えた。「社会の勉強で自分が考えたことを書いたり、話し合ったりしているか」では、90%の児童が肯定的に答えた。児童の生活と結び付いた学習課題を対話的に解決し、学習が生活に役立つと実感できたことで、社会科の学習が好きになり、より主体的に学習に向かうようになったと考える。</p>
<p>【理 科】</p>	<p>「思考・表現」では3.2ポイント、「技能」では2.8ポイント、市の平均を上回っている。しかし、「知識・理解」については、2.4ポイント下回っている。中でも、「人の体のつくりとはたらき」では13ポイント、「土地のつくりと変化」では6ポイント下回っている。「人の体のつくりとはたらき」では、口、大腸、肛門といった食べ物の通り道を消化管ということへの理解に課題がある。また、「土地のつくりと変化」では、地層は流れる水の働きによってできということへの理解に課題がある。振り返りなどを通して、「知識・理解」が深まっていくよう指導の工夫が必要となる</p> <p>学習意識調査では、「理科の勉強は、大切だと思うか。」の設問に対して、肯定的に答えた児童の割合は、市の平均を11ポイント上回っている。今後も、身近な生活の中の事象と課題とを結び付けて、課題解決していくことが大切だと考える。</p>
<p>《生活意識調査》</p>	<p>「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことはあるか」「誰かの役に立つ人になりたいと思うか」という設問に肯定的に答えた児童の割合が、市の平均を上回っている。児童は、学校生活において、「これでいいのかわ、もっといいのかわ」を合言葉に、物事を追究することを大切にして取り組んできたことが、このような結果につながったと考える。しかし、「自分のことが好きだと思うか」に「そう思う」と答えた児童の割合が、市の平均よりも9ポイント低く、自己肯定感の低さを感じる。学び合う過程や行事・委員会活動など、一人ひとりがよさを発揮し、そのよさを認め合うことで、自他がかけがえのない存在であることに気付き、自分に自信をもつことが大切だと考える。</p> <p>「1日に、携帯電話やスマートフォンを操作してインターネットやメールをするか」という設問において、1時間以上と答えた児童の割合は、市の平均よりも14ポイント高い。こうした現状を踏まえ、情報モラルの学習など、各家庭と連携しながら取り組む必要があると考える。</p>